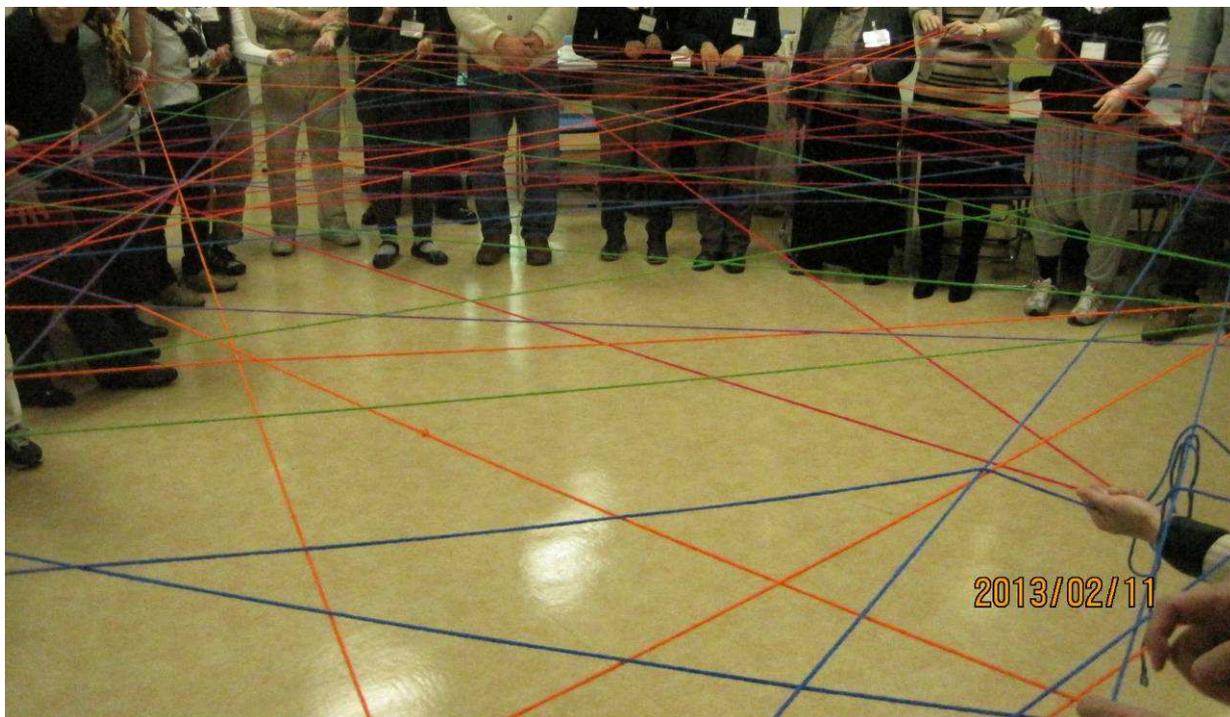


はにい

毛糸の網

平成25年3月8日



「いじめ防止プログラム指導者養成講座」での一コマです。

アメリカから招いた講師のDavid先生の指示で、参加者全員が「輪」になりました。何が始まるのか、みんなドキドキです。

David先生が、赤い毛糸を「輪」の中の一人に渡し、

“Pass the yarn to someone you know.” 「毛糸を誰か知っている人に渡して。」と指示しました。渡す時に、「〇〇さん、いきま〜す。」と声をかけ、その人へ向かって投げます。初めは2人しか持っていない「線」が繰り返すうちに網のようになってきました。

全員が「繋がった」後、2回目に入ります。今度は「仕事で繋がりたい人」に渡していきます。

3回目は、「仕事だけでなく、この研修が終わってからも繋がりたい人」に渡していきます。毛糸は、オレンジ、緑、青、紫、水色と随時違う色が足されていきます。持っている「糸」をピンと張ると、相手の力が伝わってきます。また、3回目になると糸が、こんがらがってきます

なんとか全員が3本持ち、その頃には、立派な「網」が出来上がっていました。

さて、David先生は、こう言いました

「これは、子どもをいじめから救うセーフティーネットです。ここには、先生、大学生、保護者、教育行政の人、福祉関係者、会社員、SC、政治家等様々な人がいます。それぞれの立場の人が、お互いにつながることで、子どもをいじめから救う「網」ができる。人と人がつながることは、時々めんどくさい。こんがらがると、messyだよな。」思わず納得。

しかし、苦労して出来上がった「網」はとってもきれい。

このワーク、ここで終わりかと思いきや、David先生は、まりつきのボールを持ってきて「網」の上にのせました。隙間が大きいところにボールが動くと、床に落ちてしまいます。線がたくさん交わっているところは、安定してボールがのっています。

「ボールは子どもです。」とDavid先生。

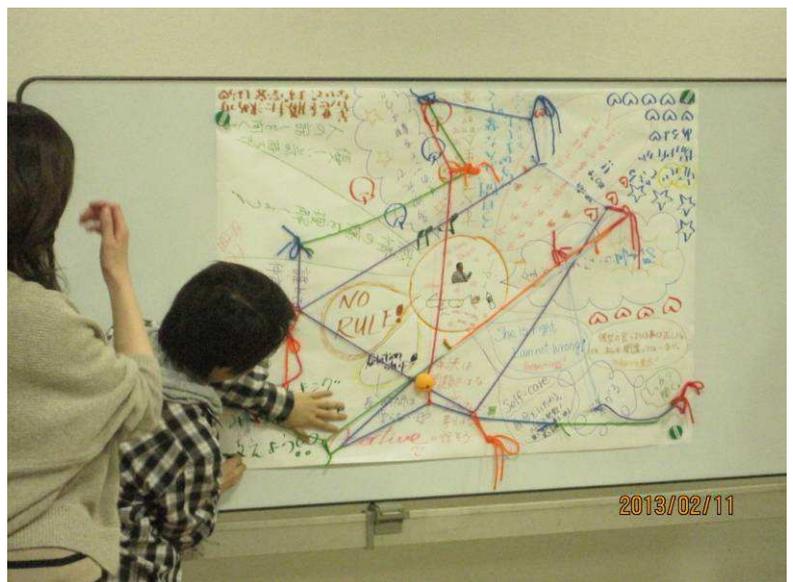
まりつきのボールがのってほっとしていると、今度はテニスボール、卓球のボールとのせていき、4つのボールがのりました。みんなで息を合わせながら、David先生の指示で移動したりします。お互い引っ張り合う糸を微妙に調整しながら・・・

さて、3日目の最後、グループワークでDavid先生から出された課題は1つ。それは、3日間で習ったことを模造紙にまとめること。ルールは1つ。模造紙を埋め尽くすぐらい、いっぱいかくこと。

「移動して、ほかのグループの模造紙に書いてもいいよ。」とDavid先生。

みんな楽しみながら、かいています。

「すご〜い。」「何か書いて。」いろいろなところで自由なやり取りが続いていきます。全6グループが発表。やはり、「毛糸の網」が描かれています。どのグループもDavid先生から“Pass!”「合格!」とってもらいました。



最後に、もう一度「輪」になって、David先生がいました。

「一人ずつここに残したい言葉を言ってください。」

ある人が言いました。

「見えないけど、今みんなが毛糸でつながっている感じがする。」

みんなその言葉に頷いていました。